

報道関係者各位

株式会社BCN
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-18-14本郷ダイヤビル6F
TEL 03-4236-5200 FAX 03-3818-3006

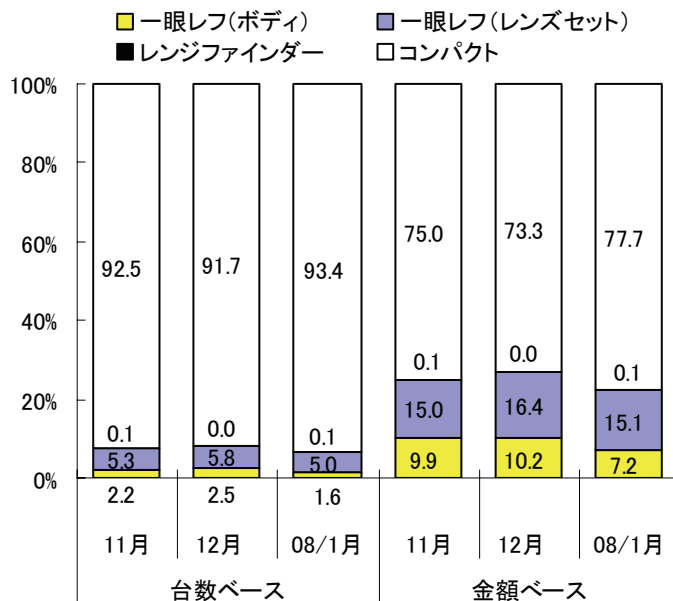
本件に関するお問い合わせは下記にお願いします。
BCN 田中繁廣
<http://ranking.computernews.com/>

■デジタル一眼レフ、年明け以降も売れ行き好調 新モデル投入で2強による主導権争い一段と激化か

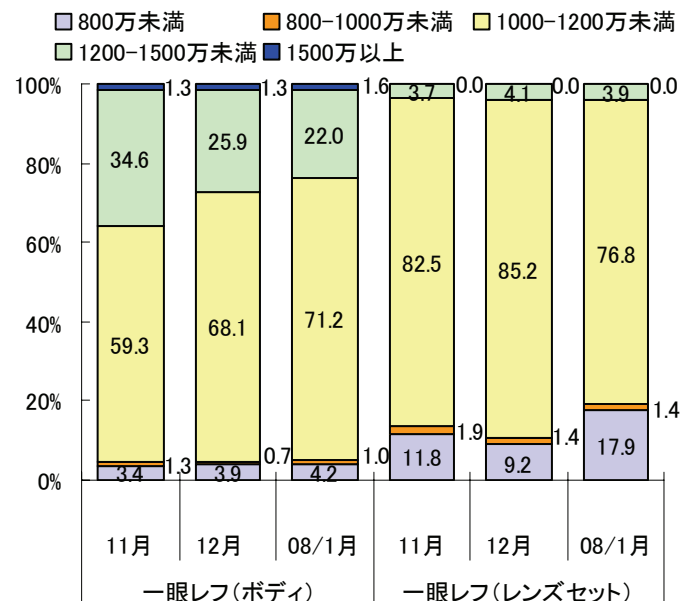
株式会社BCN(本社:東京都文京区、代表取締役社長 奥田喜久男)は、BCNランキングデータをもとに「デジタル一眼レフカメラ」に焦点をあてて販売動向をまとめた。一眼レフの内訳は「ボディ」のみと、レンズを含めた「レンズセット」モデルに大別でき、年明け以降、いずれも好調な伸びを示していることが分かった。メーカー別シェアでは完全に2強が市場を牛耳る展開で、「ボディ」では僅差でキヤノンがトップの座を維持、逆に「レンズセット」ではニコンが首位の座をキープ。それぞれが異なる領域でトップシェアを分け合う状態が続いている。ただ、ニコンが2月下旬に「D60」、キヤノンが3月下旬に「Kiss」の新モデルを投入することから、2強による主導権争いが激化するの必至で、勢力図が塗り変わる可能性もある。

*図表3、4の伸び率は標準パネルデータ、それ以外は最大パネルデータを使用しています

図表1 デジカメのタイプ別構成比率



図表2 一眼レフの画素数別台数構成比率

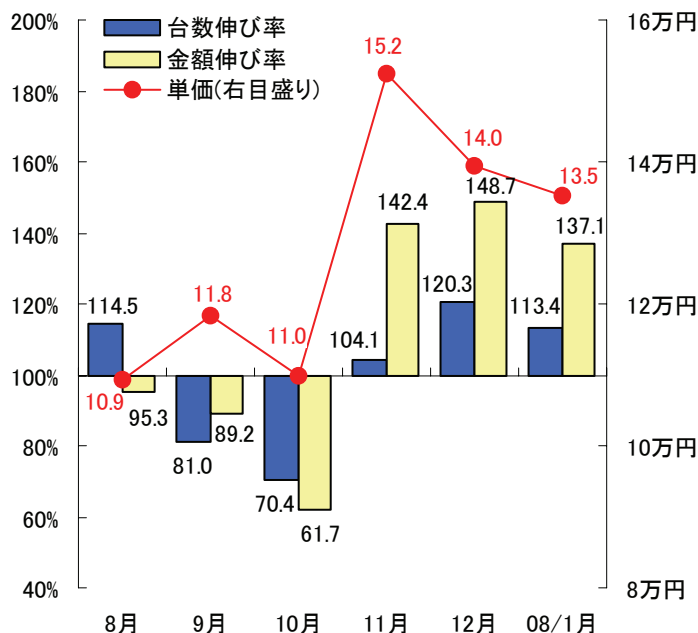


●ここ数か月、デジカメ全体に占める「ボディ」と「レンズセット」を合わせた一眼レフの台数比率は7%前後、金額は20%台で推移中(図表1)。画素数別台数構成比では、いずれも1000-1200万未満がボリュームゾーンとなるが、高画素ゾーンでみれば両者の差は顕著。ボディでは1200-1500万未満が縮小し、ワンランク上の1500万以上(特に2000万画素以上)が開けつつある。一方、レンズセットでは処分によって、1月は800万未満の比率が高まっている(図表2)。

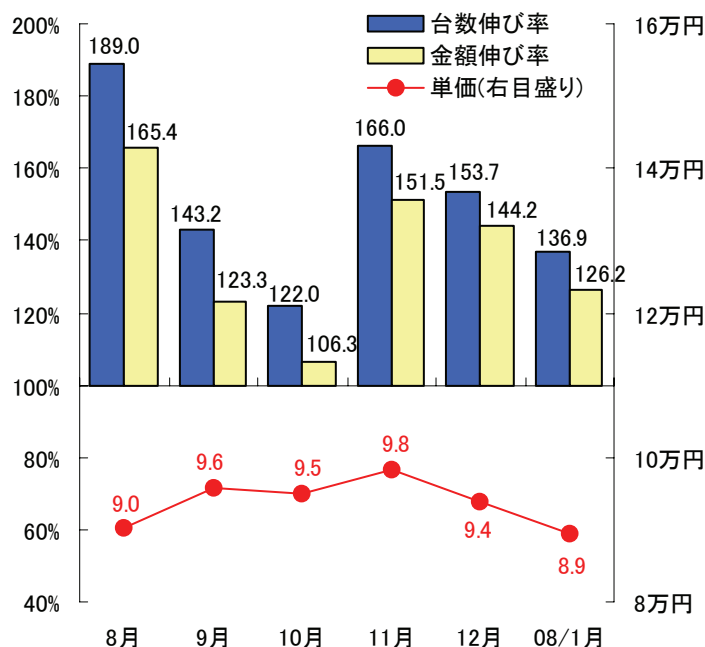
BCNでは全国のパソコン専門店、家電販売店24社(アマゾン ジャパン、エイデン、大塚商会、グッドウィル、ケーズホールディングス、サードウェーブ、さくらや、サンキュー、上新電機、ストリーム、セブンドリーム・ドットコム、ソフマップ、ZOA、九十九電機、T・ZONEストラテジ、デオデオ、ビックカメラ、ピーシーデポコーポレーション、ベスト電器、ミドリ電化、ムラウチ、ムラウチドットコム、ユニットコム、ラオックス=50音順)2299店舗(2008年1月31日現在)の daily 配信データをデイリーで収集し配信するBCNランキングを公表しています。このデータをもとに、PCリテール市場の動向を分析したニュース配信を行っています。

*集計対象の社数は、当社と販売店との間でデータ提供契約を締結している法人数をカウントしております。
*ケーズホールディングスの旧デンコードー店舗分はランキングデータ集計に含まれておりません。

図表3 一眼レフ(ボディ)の伸び率と単価

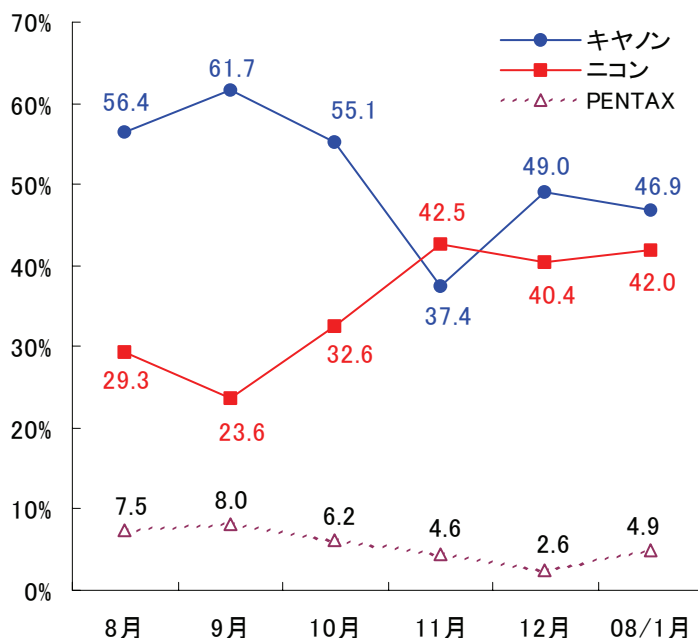


図表4 一眼レフ(レンズセット)の伸び率と単価

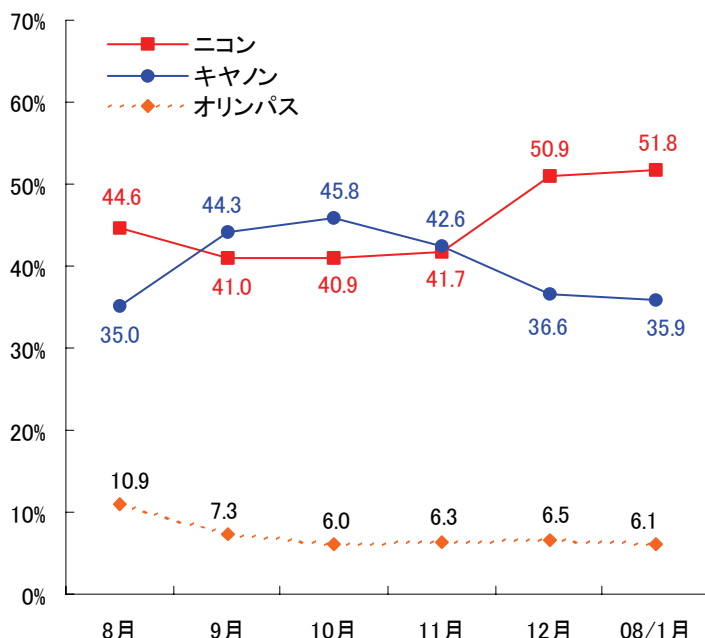


●1月の「ボディ」「レンズセット」とも台数、金額伸び率が2ケタ台を維持、引き続き需要が旺盛であることを示している(図表3-4)。平均単価はボディが13万5000円、レンズセットが8万9000円と値を下げた。春先に投入される有力な新モデルの影響が現れ始めている。

図表5 一眼レフ(ボディ)のメーカー別台数シェア



図表6 一眼レフ(レンズセット)のメーカー別台数シェア



●「ボディ」でキヤノン、「レンズセット」ではニコンがトップシェアを維持する展開だ。ニコンは、ボディでキヤノンとの差を縮め、レンズセットではキヤノンとの差を広げた。ただし、2強による一騎打ちの構図に変わりはなく、今後も主導権争いが激化する見通し(図表5-6)。両社とも春先にローエンド領域の拡充に向けて新モデルを投入するが、その仕上がり具合がシェアを決める要因となりそうだ。

本リリースについて、今後メールでの配信をご希望の方がいらっしゃれば、対応させていただきます。
お名前・会社名をメールにてお知らせ下さい。

お問い合わせ先: release@bcn.co.jp